

〒102-8798

東京都千代田区富士見2-14-23

TEL 03 (5214) 7111(代)

<https://www.hospital.japanpost.jp/tokyo/>

発行／東京逡信病院 2023年7月1日

新しい仲間が増えました

- 眼科部長就任のご挨拶
- 精神科主任医長就任のご挨拶
- 小児科主任医長就任のご挨拶
- ナースステーション～ICUの看護～
- ネコ先生の『神楽坂通信』Vol.18
- 新任医師紹介
- 人間ドック（腸内フローラ検査開始!）



眼科 部長就任のご挨拶

2023年4月1日付で眼科部長として赴任いたしました榎本暢子（えのもとのおこ）と申します。逋信病院眼科は私と同時期に赴任した上田浩平（うえだこうへい）医師、2021年から勤務している緒方南友美（おがたなゆみ）医師の3名体制で診療を担当しております。様々な眼科疾患がありますが、その中でも私は「緑内障（後に詳述）」を専門としており、診断から手術治療まで担当しています。上田医師は網膜、特にその中でも物を見るために最も重要な黄斑部の病気を専門としており、主に「加齢黄斑変性」や「網膜静脈閉塞症」の診断や、抗VEGF薬（抗血管内皮増殖因子阻害薬）による治療を得意としております。また白内障手術については榎本、上田、緒方のそれぞれが対応しており、眼内レンズも単焦点から多焦点まで患者様のニーズに合わせて使用しております。

<緑内障は早期発見が大切>

緑内障は眼圧の影響を強く受けて視神経が障害される病気と言えます。障害された視神経は改善させることが出来ないため、早期に発見し眼圧を下げて軽度のうちに進行を抑えることが重要です。緑内障は近年40歳以上の20人に1人の割合で存在するともいわれるほど身近な病気となりました。そのため何らかの理由で眼科を受診した患者さんの中に緑内障が見つかるケースは意外と多いのですが、その後眼科受診をせず十分な治療を受けないでいると、重症な視力障害や視野障害を引き起こすことになることも珍しくありません。緑内障は現在我が国における中途失明原因の第1位の病気であることからその重要性はご理解頂けるかと思えます。緑内障の検査はおもに眼圧測定、視野検査、眼底検査が行われますが、日本人の場合、緑内障の中でも眼圧は正常範囲内であるものの視神経が障害されてしまう「正常眼圧緑内障」というタイプが多いため、早期発見のためには視神経乳頭の状態をみる眼底検査が重要です。加えて光

干渉断層撮影装置（OCT）を用い、緑内障性視神経障害の本体である網膜の神経節細胞層をミクロンの単位で測定することで、視野の異常が出る前の極早期の緑内障の変化を見つけることも可能です。

<緑内障の治療は長くサポートが必要>

緑内障の治療は点眼薬で眼圧を下げる治療が基本になりますが、その治療は生涯にわたり必要となることが多く、平均余命が伸びている我が国では治療期間も長くなっています。点眼薬を毎日1回あるいは2回のが1本、2本、そして3本と増えていく中で、点眼回数を守ることが大変で途中で脱落してしまう患者さんや、点眼薬のアレルギーで目の周りがただれてしまい、点眼薬を続けることができない患者さんもいらっしゃいます。現在緑内障点眼薬は種類も格段に増え、加えて2種類の点眼が1ボトルになった緑内障配合点眼薬の登場により緑内障点眼治療の選択肢は増えていきます。それらを上手に使いながら長い治療をサポートするのも緑内障専門医の役目です。また緑内障の進行速度には個人差がありますので、状況にあわせて最終的に緑内障手術を選択することもあります。MIGSと呼ばれる低侵襲の緑内障手術や、線維柱帯切除術をはじめとした濾過手術、など病状に応じて術式を選択しています。また緑内障白内障合併症例では緑内障と白内障同時手術も積極的に行っております。

<最後に～生涯見えて楽しく過ごすために～>

内科系の病気も40代から検査を進められることが多いですが、眼の病気も同様です。人は外の情報の約8割を目（視覚）から得ています。外からの情報が少なくなってしまうと人は生活が楽しめなくなってしまうと思います。40歳を過ぎたら視力検査や眼底検査と一緒にぜひOCTによる精密検査も受けることをお勧めします。

東京逋信病院眼科では眼科の疾患を幅広くみておりますが、今後は特に緑内障と黄斑疾患の診断、治療により力を入れて参ります。どちらの病気も早期診断が大切であり、その後長い治療も必要になりますが、適切に治療することで失明を予防できる病気とも言えます。ご心配な点や検診で疑いを指摘されました際にはぜひ逋信病院眼科にご相談にいらしてください。病気を理解するのは難しいですが、わかりやすい説明を心がけて不明な点を解決しながら診療して参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



精神科 主任医長就任のご挨拶

職場復帰を目指す方へ ～東京逡信病院の職場復帰支援～

健康増進法が制定されて数年が経ち、定期的に職場でメンタルチェックのシートを提出する風景も、違和感がなくなったように思います。職員の心身の健康を守ることが企業の義務であるという認識が、徐々にではありますが、それぞれの現場に浸透してきたのかもしれませんが。千代田区は昼間人口が夜間人口の10倍以上になることが示す通り、働くひとたちの街であり、今後もメンタルヘルスの重要性は増してゆくものと思います。

職場のメンタルヘルスに関連した疾病はさまざまありますが、認知度の高いのは『うつ』と呼ばれる気分障害圏の不調でしょう。気分障害は、1割程度の方が生涯に1度は経験すると推計されており、糖尿病や高血圧と同様にcommon disease（ありふれた病気）にカテゴライズされています。ありふれた病気なのですが、しかし経験した個人にとっての苦痛度は非常に高く、家族や職場に与える影響も大きいです。

気分障害は、回復が期待できる病気です。薬物治療や心理療法も広く行われていますが、いったん休職して、落ち着いた環境での療養をお勧めすることも多いです。職場環境から離れて、自分の心身の健康を尊重した生活を営むことで、回復が期待できるからです。緊急避難のようなものでしょうか。抗うつ薬や睡眠薬などを使用しなくても、休養するだけで回復する方も多いのです。

療養を経て、心身の安定を取り戻したあと、問題になるのが、どのように職場に戻るか＝職場復帰（復職）です。休職する直前まで、非常に辛い記憶を職場に残している方々も多くいらっしゃるのです。自宅で療養しているぶんには快適に過ごすことが出来ていたのに、職場から一本電話やメールをもらっただけで、たちまち動悸がして、まったく眠れなくなってしまった、という話をお聞きすることも、まれではありません。加えて深刻なのが、気分障害で休職に至った方々の約半数が、復職後も、病前に比べて仕事能力の低下がみられるとする報告です。これは、気分障害の回復過程が非常に緩徐であることが深く関連していると思われる。

当院では、職場復帰支援の一環として、リワークを併設しています。朝9時半から午後3時半まで週5日のスケジュールで、自己学習や心理教育、集団作業を行います。心理教育では、ストレスへの対処法や過去の記憶との付き合い方などをスタッフと相

談しながら学習してゆきます。3か月のプログラムは前半と後半に分けており、後半はより具体的な職場復帰をイメージしたものになっています。後半の時期には、職場に対して、復職当初しばらく時短勤務やテレワークでの勤務を依頼するなど、復職にあたって必要

な配慮などを具体的に働きかけてゆく場合もあります。リワークプログラムと周辺支援を通して、職場復帰を目指す方々の助けになることを目指しています。

最後に、場末の精神科医療従事者であるわたくしから、はなはだ立場をわきまえない一方的な呼びかけにはなってしまいますが、管理者や雇用側の立場におられる方々へ、ひとつお願いがあります。精神科で復職の支援をしていると、患者さんが勤務されている企業の上司や人事部の方から「ぜひ完全に良くなって、元のように仕事が出来ようようになってから復職してください」という趣旨の回答をいただき、少し失望することがあります。もちろん、患者さんを思っておっしゃっているのですが、結果として、職場には回復プロセスの具体的な支援は特にはないです、という意味表明になってしまうからです。逆に「復職にあたって、業務内容や勤務時間、部署など配慮すべき点を教えてほしい」と非常に心強いお言葉をいただくこともあります。気分障害の経験から自宅療養での安定、リワークプログラムに参加してのリハビリテーション、業務量や就労時間などに制限を設けたかたちでの職場復帰、疲労や緊張感への慣れを経ての通常勤務への移行、という一連のプロセスは、復帰する職場のご協力をいただいて初めて成立します。職場復帰はひとつの目標ではありますが、ゴールではないからです。ゴールは、患者さんがより自然体で仕事をし、家庭生活を営むようになり、かつて『うつ』を経験したことなどすっかり忘れて日常を過ごすことができる日々を取り戻すことです。管理者や雇用側の立場におられる方々にも、ぜひご理解とご協力をお願い申し上げます。



精神科
主任医長
成田 耕介



小児科 主任医長就任のご挨拶

小児科主任医長に就任いたしました大塚と申します。私は20年以上前になりますが、千葉大学小児科学教室よりの命を受け東京通信病院小児科で1年間診療をさせていただいたことがあります。その後、千葉県や都内城東地区の子供が多い地域を中心に、感染症を始めとして一般小児診療を幅広く行い、また新生児医療とフォローアップ、発達やこどもの心の相談・診療、ダウン症などの基礎疾患を持つ子供たちの診療などに携わって参りました。この度ご縁あって通信病院に赴任することとなり、懐かしい気持ちでおりますと同時に、以前よりも近隣に小さなお子さん達が多く住まわれている様子を拝見して、地域医療に少しでもお役に立ちたい気持ちでおります。どうぞよろしくお願いいたします。

○小児科の診療内容

総合病院であることから、各種検査が迅速に行えます。そのため、緊急を要する感染症の診断や治療はもちろんのこと、お子さんの色々な症状の経過が長くご心配な場合など、ご相談いただけたらと思います。各種アレルギー疾患、治りが悪い夜尿症、発達やこころの心配などにも毎日対応しています。診療日が限られますが心臓外来、神経外来、ダウン外来、OD外来、心理士による心理外来も行っております。

お子さん達にとって、予防接種や乳児検診はとても大切です。近年、予防接種は種類も多く接種スケジュールの変更なども多いため、うっかり接種がもれてしまうこともあります。スケジュールの相談から接種まで、一部ワクチンを除いて当日

でも対応可能ですので、お気軽にご相談ください。予防接種や乳児検診時に、体重増加やお肌の調子など育児における心配事がおありの方は何でもご相談いただけます。なお、予約は水曜PM、金曜AMを除く毎日可能で、感染症の疑われる方とは診察空間を分けて対応しております。

○ダウンセンターについて

2018年より当院にはダウンセンターが併設されております。ダウン症候群は染色体異常の中で最も多くおおよそ出生500-600人に1人と言われます。乳幼児期は合併症の治療が必要なことが多く、成長発達もゆっくりで、親御さんのご心配も大きいですが、じきに体調も落ち着き、じっくりと穏やかに発達をする姿に安心され、味わいのある育児を楽しまれることが多いです。

歩行確立までは赤ちゃん体操（ダウン症児に特化した運動療育）、その後はダウン外来での包括的診療を、必要があれば他科との連携も取りつつ行って参ります。

地域にお住まいの方が安心して子育てができますように、お役に立ちたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



小児科
主任医長
大塚 里子

ナースステーション

～ICU（集中治療室）の看護～

ICU看護師長
林 知子

ICUとは、一般的に重篤な疾患を有する患者さんに対し、24時間体制で監視、ならびに治療を行う集中治療室のことを指します。ICUは『Intensive Care Unit（集中治療室）』の略で、内科・外科系問わず、呼吸器や循環器、その他の重篤な急性機能不全の患者を集中的に治療・看護を行う病棟です。患者2名に対して1名以上の看護師が従事しており、生体情報監視装置（心電図モニタ、呼吸数モニタ、体温モニタなど）や目視・体感によって患者さんの病態を常時観察し、人工呼吸器、除細動器、血液ガスなど様々な機器に対応しつつ急変時の早期発見に努めています。

また、患者さんの日常生活を援助し、ニードに応えることも看護師の重要な役割と考え、清拭や食事介助はもちろん、苦痛・不安の緩和、倫理的葛藤、意思決定における援助など、不安なく安心して生活できるよう、医療チーム（医師・看護師・臨床工学技士・栄養管理士・薬剤師・医療福祉相談室・医療安全対策チーム・リハビリチーム等）と連携を図り援助を行っています。

集中治療室の看護師は透析室の看護も担っており、腎臓内科医師・臨床工学技士とともに安全な治療環境を整えています。

「心がかよい信頼される看護を提供します」の当院の看護理念のもと良質な看護の提供を目指していますので、よろしく願いいたします。





ネコ先生の『神楽坂通信』 Vol.18

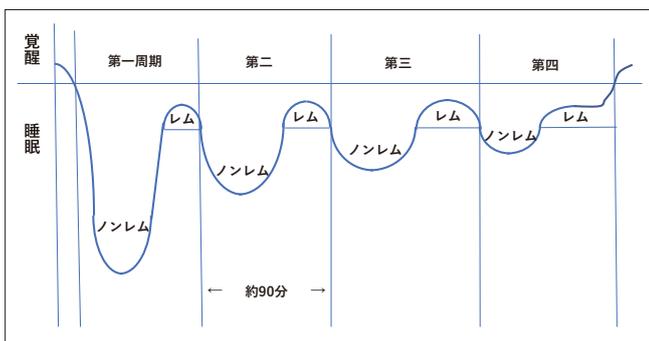


皆様こんにちは。今回は「睡眠」についてのお話です。睡眠は何のためにあるのでしょうか。脳を休ませる、記憶を定着させる、免疫力を強化する、自律神経・ホルモン分泌を整える、脳細胞の老廃物を除去する、などが知られています。

睡眠不足が積み重なる状態を「睡眠負債」と呼び、体調不良の原因になります。感染症にかかりやすくなります。食欲をおさえるホルモン（レプチン）が減り肥満になります。仕事の能率が低下し、車の運転ミスが増えます。ポジティブな感情が減り、うつや不安な状態に陥りやすくなります。

では、睡眠の長さはどれくらいが最適なのでしょうか。個人差がありますが、全体では7時間程度の人死亡リスクが最も低いとされています。睡眠は、ノンレム睡眠とレム睡眠の組み合わせによるサイクルがあり、1回90分程度が一晩に数回繰り返されます（図）。ノンレム睡眠は脳も体も眠る深いもの。レム睡眠は、体は寝ているが脳は起きている浅い眠りで、夢はこの時期に見ます。記憶の定着や整理、消去などにはどちらの睡眠も必要です。1周期目のノンレム睡眠が最も深く、細胞の修復を行う成長ホルモンがたくさん分泌される重要な時間帯です。

次に、睡眠と覚醒（目覚め）はどのようにして生じるのでしょうか。我々の全身の細胞には体内時計という仕組みがあり、生理機能をほぼ1日で回すサーカディアンリズムを作ります。このリズムにより体温やホルモン分泌が変わり、睡眠も影響を受けます。夜になり暗くなると、眠りを誘うホルモン（メラトニン）の分泌が増え、逆に明け方になると、目が覚めるように働くホルモン（コルチゾール）の分泌が増加します。このリズムの



影響と体の一定性を保とうとする働き（疲労で眠くなるなど）によって睡眠は調節されています。

では、より良い睡眠と覚醒の循環を作るにはどうすればいいのでしょうか。まず目覚めたら、朝の光を浴びることが重要です。光は目から脳へ情報を伝え、体内時計をリセット



院長補佐兼
消化器内科 部長
光井 洋

トします。あと音楽を聴く、体を動かすなどにより感覚刺激を脳に伝えるようにしましょう。十分睡眠が取れていれば、日中はオレキシンという神経伝達物質が活発に分泌され、覚醒が保てます。夜になったら、眠気が起きた時に寝るのが理想です。寝る直前までスマホやパソコンを見ることやカフェインの摂取は避けましょう。部屋を暗くすること、ラベンダーなどの香りや単調で静かな音楽も役立ちます。

睡眠障害の原因で注意すべきものが睡眠時無呼吸症候群です。肥満の人に多く、睡眠中に舌が気道を塞いで息が苦しくなります。そのため慢性的に眠りが浅く、生活習慣病や突然死の原因になります。夜間に大きないびきをかく、息が止まることがある、などを家族に指摘されたら要注意です。

最後に、眠り薬（睡眠薬）について。最もよく使われているのが、ベンゾジアゼピン系で、神経細胞のギャバ受容体にくっついて眠気を誘います。良く効きますが、止め時が難しいです。次に覚醒物質オレキシンの働きをブロックするもの。さらには睡眠ホルモン（メラトニン）類似の働きをするものなど。できれば睡眠薬なしで眠りたいものですが、必要な場合は内科、精神科の医師に相談してください。皆様が良い睡眠と快適な目覚めで過ごされますように祈ります。



新任医師紹介

2023年4月1日採用



眼科 部長
えのもと のぶこ
榎本 暢子

4月より眼科に赴任しました。患者さんが心配されている症状を理解して頂けるよう丁寧な説明と治療を心がけて参ります。どうぞよろしくお願ひ致します。



小児科 主任医長
おおつか さとこ
大塚 里子

4月より小児科に赴任いたしました。子供たちが成長していく姿に喜びを感じながら診療をしております。育児の中で気になる事は何でも相談してください。どうぞよろしくお願ひいたします。



麻酔科 医長
きしだ けんいち
岸田 謙一

ご縁あって20年ぶりに戻ってまいりました。懐かしい反面、浦島太郎の部分もあります。初めて来た時の気持ちを忘れないようにしたいと思います。よろしくお願ひいたします。



内科 医師
いぐち しんたろう
井口 晋太郎

4月より内科医として赴任いたしました。患者さんの一人一人に真摯に向き合い、丁寧な医療を心がけて参ります。よろしくお願ひ致します。



内科 医師
げんま ゆか
弦間 有香

今年度より内科医として赴任しました弦間有香と申します。謙虚に常に感謝の気持ちを忘れずに患者さんひとりひとりに向き合います。よろしくお願ひいたします。



内分泌・代謝内科 医師
にしうち ようこ
西内 洋子

この4月より内分泌・代謝内科に赴任いたしました。皆様のお役に立てるよう、日々精進してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



血液内科 医師
むかえ じゅんいち
迎 純一

4月より血液内科医師として赴任しました迎純一と申します。地域の血液診療に貢献できるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。



神経内科 医師
よし い こうしろう
吉井 光司朗

4月より神経内科に赴任いたしました。神経内科医師として知見・技術を磨きつつ、それらを地域の患者さん一人ひとりに還元できるよう精進いたします。よろしくお願ひいたします。



救急科 主任医長
なかはら しんじ
中原 慎二

救急科は緊急時の地域医療への入り口です。院内各科および地域の医療機関と協力して救急患者さんに対応して参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。



精神科 主任医長
なりた こうすけ
成田 耕介

本年4月より当院精神科に配属いたしました。当院は企業立病院でもあり、医療や復職訓練を通して、働く人たちの人生の質の向上に役立つことを目指したいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



感染予防対策室 医長
じゅうびし だいすけ
十菱 大介

感染予防対策室の十菱と申します。病院内での感染を未然に防ぐのが主な仕事で、色々な部署と協力して最も適切な感染対策を進めていきます。よろしくお願ひいたします。



内科 医師
いわきき つぐみ
岩崎 つぐみ

4月より内科医として赴任いたしました岩崎つぐみと申します。患者さんに寄り添う医療を心がけ、日々努力する所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。



内分泌代謝・代謝内科 医師
しきしま さよ
敷嶋 さよ

4月より内分泌・代謝内科に赴任いたしました。患者さんにご満足いただける質の高い診療を心がけ、安心感に繋げられるよう努めてまいります。よろしくお願ひいたします。



血液内科 医師
いけだ あかり
池田 朱里

4月より血液内科に赴任いたしました。患者さんが安心して治療に取り組めるよう丁寧な診療につとめます。よろしくお願ひいたします。



神経内科 医師
ちよう けんいち
趙 顕一

4月より神経内科に赴任いたしました。患者さんそれぞれの立場に立ち、丁寧で親身な治療を提供することを心掛けてまいります。どうぞよろしくお願ひ致します。



腎臓内科 医師
たかく ゆうたろう
高久 由太郎

1年ぶりに腎臓内科として赴任致しました。困った時にこの病院で見てもらいたい、と思ひいただけるように精進致します。よろしくお願ひいたします。





消化器内科 医師
さかい ゆりえ
坂井 有里枝

消化器内科に赴任しました坂井 有里枝です。入院、外来、検査と幅広く担当させていただきまます。患者さんに寄り添えるよう日々精進しますのでどうぞ宜しくお願い致します。



外科 医師
なかむら ゆうき
中村 優紀

4月より外科に赴任しました中村優紀と申します。患者さん一人一人に寄り添った医療を心がけて精進して参ります。どうぞ宜しくお願い致します。



整形外科 医師
いいほし まゆ
飯干 真由

はじめまして。4月より整形外科に赴任致しました飯干と申します。患者さんに寄り添った丁寧な診療を心がけて参ります。宜しくお願い致します。



眼科 医師
うえだ こうへい
上田 浩平

4年ぶりに当院に赴任いたしました。皆様には喜ばれますよう、他の職員と連携して、しっかり診療をしていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



形成外科 医師
おの ともひろ
小野 智洋

4月から1年間お世話になります。診察から術後まで手厚い診療を心がけます。治療に関して気になることがあれば悩まず、気軽に質問してください。納得されるまで親身になって説明します。よろしくお願ひします。



泌尿器科 医師
もり りょうた
森 亮太

患者さんお一人おひとりに寄り添った医療の実践に向けて日々精進させていただく所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



精神科 医師
こなり かほ
小成 佳穂

4月より精神科に赴任しました。患者さんに寄り添った医療を心がけてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



消化器内科 医師
ときとう ゆりえ
時任 佑里恵

消化器内科に赴任しました時任と申します。3年ぶりに通信に戻って参りました。専門は胆膵疾患ですが、お腹の痛みや便秘など日常の些細なことでもご相談下さい。



外科 医師
ふかつ たまみ
深柄 珠実

4月から外科に赴任いたしました。患者さんに寄り添った診療を目指して精進して参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。



整形外科 医師
さとう りゅういちろう
佐藤 竜一郎

4月より整形外科に赴任いたしました。日々研鑽を積みながら診療して参ります。よろしくお願ひ申し上げます。



皮膚科 医師
なかじま のりひさ
中島 範久

4月より皮膚科に赴任いたしました。患者さんに寄り添った医療を心がけて精一杯勤めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ致します。



泌尿器科 医師
しらとり たいち
白鳥 太一

患者さんのQOL改善につながるような質の高い医療を提供できるよう、最善を尽くしてまいります。



耳鼻咽喉科 医師
しばた せいち
柴田 晟智

こんにちは。本年度4月から耳鼻咽喉科として着任した柴田晟智(しばたせいち)と申します。患者さんの健康のために精一杯頑張りますのでよろしくお願ひ申し上げます。



放射線科 医師
あさり ゆうすけ
浅利 雄介

4月より放射線科に赴任いたしました。患者さんに寄り添った、丁寧で温かみのある診療を心がけて参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

当院を退職しました

2023年3月31日、5月31日、6月30日退職

大石 展也 (院長補佐兼呼吸器内科部長)
高瀬 真人 (小児科部長)
鈴木 丈夫 (IVR科部長)
善本 三和子 (眼科部長)
渡邊 大介 (血液内科医長)
清川 裕介 (内科)
澁木 瑞穂 (内科)
高木 典子 (内分沁・代謝内科)

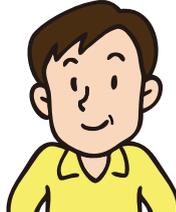
濱田 大輔 (内分沁・代謝内科)
中田 康允 (血液内科)
田村 崇行 (神経内科)
大久保 颯 (神経内科)
石原 達彦 (循環器内科)
関口 麻里子 (腎臓内科)
佐藤 ももか (消化器内科)
林 猛志 (消化器内科)

手銭 悠 (消化器内科)
石垣 潤一 (呼吸器内科)
宇陀 数真 (外科)
清水 勇輝 (整形外科)
小岩 空 (整形外科)
嶋田 香苗 (小児科)
山田 翔子 (皮膚科)
石井 健太郎 (形成外科)

佐々木 正比古 (泌尿器科)
新見 文沙子 (泌尿器科)
水本 結 (耳鼻咽喉科)
河野 麻衣子 (麻酔科)
大久保 悠 (放射線科)
田尻 亮輔 (病理診断科)
五十嵐 希望 (眼科)



1年に1回は健康チェック



男性 基本検査

身体測定	肝・胆道系	眼科
呼吸器系	消化器系	耳鼻科
循環器系	血液系	
腎・尿路系	炎症・その他	
代謝系		

料金 45,100円

追加でオプション検査もございます。



女性 基本検査

身体測定	肝・胆道系	眼科
呼吸器系	消化器系	耳鼻科
循環器系	血液系	婦人科(子宮頸がん検診)
腎・尿路系	炎症・その他	外科系(乳房撮影+触診)
代謝系		

料金 52,360円

追加でオプション検査もございます。

腸内フローラ検査 6/1開始！しました

当院人間ドックでは、新規オプション検査として「腸内フローラ検査」を6月1日から開始しました。腸内フローラ検査は、医療機関向けのマイキンソー社のGut V4（アマゾンなどで販売中マイキンソーGut V2は個人向け）を使用します。医療機関向けのキットは個人向けよりもかなり詳しい医療向け検査となっています。

腸内フローラ(細菌叢)とは

全身の細胞



約37兆個

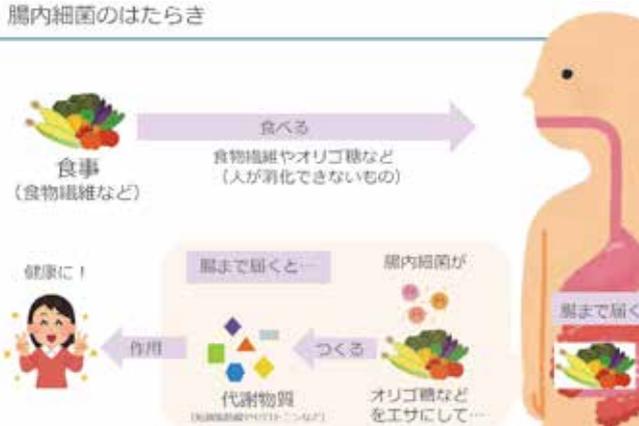
腸内細菌



100兆個以上！
重さ：1~1.5kg

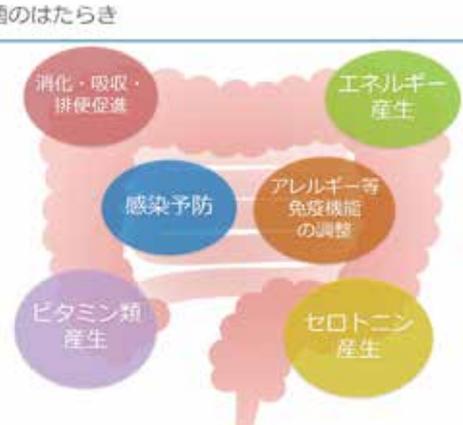
腸内細菌には「一つの臓器」に匹敵するほどの働きと影響力があります！

腸内細菌のはたらき



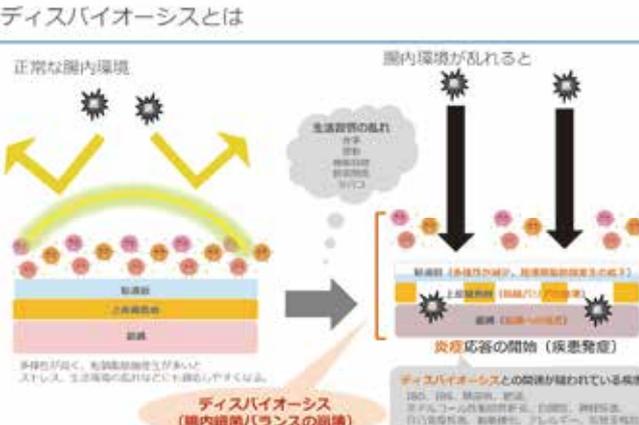
食事(食物繊維など) → 食べる → 食物繊維やオリゴ糖など(人が消化できないもの) → 腸まで届くと → 腸内細菌が腸まで届く → つくる → オリゴ糖などをエサにして → 代謝物質(短鎖脂肪酸やビタミンなど) → 作用 → 健康に！

腸内細菌のはたらき



- 消化・吸収・排便促進
- エネルギー産生
- 感染予防
- アレルギー等免疫機能の調整
- ビタミン類産生
- セロトニン産生

ディスバイオーシスとは



正常な腸内環境 → 腸内環境が乱れる → 腸内環境が乱れると → 腸内細菌叢の乱れ(多様性の減少、腸内細菌叢の減少) → 炎症応答の開始(疾患発症) → ディスバイオーシス(腸内細菌バランスの崩壊)

大腸の中に住み着く100兆個以上、総重量約1キロの腸内細菌は人の体調に影響することから「もう一つの臓器」と呼ばれています。2005年腸内細菌の全遺伝子を高速に検出する「次世代シーケンサー」の登場により、腸内細菌は便秘や下痢だけでなく、肥満や痩せ、血糖、高血圧、免疫力などの生活習慣病と関係があることがわかってきました。「おなかの調子が悪い」「ダイエットがうまくいかない」「免疫機能を高めたい」「生活習慣を見直したい」方へ、あなたにぴったりの生活習慣のアドバイスレポートをお送りします！

料金は19,800円です。お申込みや、お問い合わせは人間ドックセンターまで

